

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 95
December
2013

International University of Health and Welfare

海外保健福祉事情

第3回

幸齢者スクール

第4回

キッズスクール

第3回

国際医療福祉大学学会学術大会

大田原キャンパス

風花祭

第

18

回

かざはなさい



October 12 ~ 13 2013

かざはなさい

第18回

風花祭

今年のテーマは

「Ambition ～無限の可能性～」

18回目を迎える風花祭をこれまで以上のものにしようという向上心や若者の持つ希望、夢、目標に向かって全力で取り組む強い決意、熱い思いなどが込められた。

(大田原キャンパス 広報室 金井雅之)

小田原キャンパス(潮風祭)、
福岡キャンパス(蓮翔祭)、
大川キャンパス(月華祭)の
様子はP.10~11を
ご覧ください。



ステージではコンテストも開催



ベストカップルコンテストの優勝カップル。
賞品は東京ディズニーランドペアチケット。



実行委員長は
理学療法学科2年の鈴木暁さん。
ミスターコンテストや
ベストカップルコンテストにも登場。
「率先垂範」を地で行く
頼もしい委員長だった。



屋内展示も充実

アートデザインサークルの
アメリカンフラワー制作実演。



ピアカウンセリング部の活動を
壁いっぱいで紹介。



ミスコンテストとミスターコンテストの優勝は
このふたり。

継続は力! 被災地支援



3年目になった被災地支援。今年も宮城県岩沼市の新鮮野菜を仕入れて販売し、さらにこれらを使ったシチューも完売。

風花祭模擬店B級グルメレポート



●水泳部の
キャラメルポップコーン

●女子サッカー
サークルの
ひとくちポテト



●DEVILSの
チョコバナナ

●少林寺拳法部のだんご汁



●空手部のカレー

●Nurse's cafe の
メガパフェ(500円)は
家族連れにぴったり!



風花祭
名物
太鼓判

●バトミントン部のそばめし

「社会に開かれた大学」を基本理念のひとつとし、さらに、「専門性」「学際性」を教育理念に掲げる本学ならではの取り組みとして、この秋に大田原キャンパスで開催された三つのイベントを紹介する。

第三回 国際医療福祉大学学会学術大会

八月三十一日、九月一日の二日間、大田原キャンパスにて、「第三回国際医療福祉大学学会学術大会」(大会長・武田弘志薬学部長)が開催された。今回のメインテーマは、「医療福祉の原点を再考する〜QOL(Quality of Life)とQOD(Quality of Death)〜」。



●挨拶に立つ武田弘志大会長

従来、患者様本位の安心・安全でかつ質の高い医療福祉の実践はQuality of Life(患者様が理想とする生き方、もしくは社会的にみて人間らしい生活)の向上が第一に考えられてきた。近年は、これに加え、Quality of Death(患者様が望む理想的な死に方、安らかな最期の迎え方)の向上も考えていかなければならない時代となってきた。

今回のメインテーマはこうした時代背景を踏まえたもので、医療福祉に携わる多職種の専門家が一堂に会して、テーマに沿った活発な議論と発表を行うとともに、改めて医療福祉の原点について考えた。

二日間の会期中、口述発表やポスターセッションの他、二つの特別講演、三つのシンポジウム、臨床工学ワークショップ、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン公開講座、学科特別企画などが開催され、実り多い学術大会となった。

また、この学術大会に先立ち、一日目の午前に「関連職種連携実習報告会」が開催され、学生をご指導いただいた実習先の担当者などが見つめる中、三つの教室で一八チームが発表を行った。



●関連職種連携実習報告会での質疑応答場面

1日目

- 関連職種連携実習報告会
- 臨床工学ワークショップ
- 開会式
- 北島政樹学長、武田弘志薬学部長特別講演I
- (座長・杉原素子副大学院院長)「看護行政の推進 ―患者のQOLとQOD―」
- 久常節子副大学院院長
- ポスターセッション
- シンポジウムI
- (座長・新井田孝裕視機能療法学科長、黒澤美枝子教授)「痛みと痒み―その病態と治療―」
- 天野託教授、伊藤寛之講師、新井巖客員研究員、大塚勤教授
- 特別講演II(座長・武田弘志薬学部長)「医療におけるシミュレーション教育」
- 天野隆弘副大学院院長
- 情報交換会



●特別講演の天野副大学院長



●久常副大学院長による特別講演



●熱気のあったポスターセッション会場

2日目

- 口述発表
- シンポジウムII
- (座長・鈴木裕国際医療福祉大学病院副院長、福島道子看護学科長)「緩和医療の現状と将来展望」
- 鈴木裕副院長、小川朋子准教授、姫野深雪講師、児玉弘子(作業療法士)、松尾英樹(理学療法学科)学科特別企画
- シンポジウムIII(座長・勝平純司講師、宮川和也講師)「若手シンポジウム―医療福祉の先端知識・技術の共有―」
- 勝平純司講師、佐藤謙講師、丸山純人助教、野村晴美講師、窪田光枝講師、宮川和也講師
- がんプロ公開講座(座長・大東貴志三田病院泌尿器科部長)「5days discharge program―患者、家族、病院、地域の連携医療は欧州のERASを凌ぐ―」
- 鈴木裕副院長
- 国際医療福祉大学学会総会
- 閉会式

情報共有の場となった3つのシンポジウム



●シンポジウムIIIの座長を務める勝平講師と宮川講師



●シンポジウムIIの座長を務める鈴木副院長と福島看護学科長



●シンポジウムIの座長を務める新井田学科長と黒澤教授

(大田原キャンパス 広報室 金井雅之)

第四回 キッズスクール



八月一日、「キッズスクール」(協賛IIネット ヨタ栃木株式会社、共催II大田原市・大田原市教育委員会)が開催された。参加者は小学生五八名と中学生五五名で、小学生は理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士など医療福祉サービスを受ける側として、中学生は看護師、診療放射線技師、作業療法士、薬剤師など医療福祉に従事する側として各分野を



●バーチャルシミュレータで外科手術に挑戦



●アイマスクをつけた盲導犬体験

体験した。

また、共通企画の「内視鏡シミュレータを操ってみよう」では内視鏡手術を体験し、「介助犬・盲導犬デモンストレーション」では身体が不自由だった目が見えない人たちの手足となつて働いてくれる補助犬について学んだ。最後に北島政樹学長から参加者一人ひとりに「ヘルスケア・ジュニアリーダー認定証」が手渡された。

(大田原キャンパス 広報室 金井雅之)

第三回 幸齢者スクール

九月二日、恒例となつた「幸齢者スクール」が開催され、六四名のアクティブシニアが講演、展示、体験学習に参加した。



午後の医療福祉体験学習のうち、「ハンド&ネイルケアでここところから癒しを」のブースは、二日前に介護福祉実習IIを修了した介護福祉コースの三年生が中心となって実施した。ハンドケアは、快眠コースと肩こり解消コースを用意した。ネイルケアは、季節感を取り入れた三種のネイルデザインから選べるほか、爪みがきで艶出しを希望できるなどの体制を整えた。健康に関する数字に表せない内容であったが、終始

和やかな雰囲気だった。初体験のネイルケアのあと、目の前に手をかざし自然な笑みがこぼれる参加者がいらつした。



●実習の成果を生かしてブースを企画した

マッサージでは、参加者も学生も温もりある感覚を体感し、癒しの空間を満喫できたと感じた。学生は実習で習得してきた「生きたコミュニケーション」ができていたと教員一同感心した。

(医療福祉・マネジメント学科 講師 野村晴美)

2.3 特集1 第18回風花祭 大田原キャンパス

4.5 特集2 大田原キャンパス秋のイベント

国際医療福祉大学学会学術大会／キッズスクール／高齢者スクール

6.9 特集3 海外保健福祉事情

韓国・中国・台湾・ベトナム・タイ・シンガポール・オーストラリア

キャンパスレポート

10 小田原キャンパス／福岡キャンパス／大川キャンパス／大学院

11 塩谷看護専門学校
留学生通信

トピックス

13 北島学長の万国外科学会名誉会員就任および「Kitajima Prize」創設について／金澤大学院長瑞宝重光章を受章／久常副大学院長フローレンス・ナイチンゲール記章授与式のご報告

14 国際医療福祉総合研究所が医療シンポジウムを開催／第13回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会
15 おおるり会卒後研修会／元培科技大学留学生が2年連続で視機能療学科に！／第4回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト表彰式開催

施設インフォメーション

16 国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学三田病院

17 国際医療福祉大学熱海病院／高木病院・福岡山王病院／介護老人保健施設水郷苑・軽費老人ホームおおかわケアハウス
第39回日本重症心身障害学会学術集会開催のご報告

18 同窓会通信

19 生涯学習のご案内

20 学生投稿ページ

【訃報】

本学卒業生(2011年3月、医療福祉学部医療福祉学科〈当時〉卒業)で、栃木県職員や本学職員を務めた大蔵拓也さんが11月8日、29歳で死去した。大蔵さんは骨肉腫により17歳から車椅子生活を送るなか、日本縦断を計画。2006年8月、北海道・宗谷岬を出発して沖縄・波照間島をめざした。休日に野宿をしながら車椅子を走らせる様子はメディアでたびたび紹介された。今年8月、富山県を出発して間もなく体調が悪化し緊急入院。余命は年内か半年との宣告を受けた。同行していた友人ら3人が代走し、10月10日、波照間島にゴール。大蔵さんは病室で、北海道から沖縄まで運ばれたフラッグに「ありがとう」と書き込んだばかりだった。



●今年7月、日本縦断再スタートに際して本学を訪れた大蔵さん

謹んでご冥福をお祈りいたします。

特集3

海外保健
福祉事情 韓国

海外保健福祉事情



仁済（インジエ）大学

日韓混成グループによる交流

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
助教 杉原浩郎

仁済（インジエ）大学は、釜山近郊の金海市に位置する医療系の総合大学である。八月五〜一六日、先方の手厚いサポートのもと、四七名（理学二七名、作業九名、言語一一名）の研修が行われた。

研修の軸は、日韓混成のグループ活動をもとにした学生交流プログラムである。二日目はグループが組まれ、文化交流、韓国語教室、釜山市内見学、病院訪問、そしてK-POPダンスコンテストまで、多くのプログラムがこのグループで行われた。さまざまな協働作業を通じて親睦が深まっていく様子をののたりにし、驚き、嬉しく思った。当初ぎこちなかったコミュニケーションも、仁済の学生の積極性に負う形で徐々に打ち解けたものとなった。特に日ごと上達する仁済の学生の日本語に、交流にかける食欲を見る思いがした。



●金海報勤（ポフン）療養院にて

有意義だった施設見学

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 福島菜津美

海雲台白病院や金海報勤病院を訪問して設備や医療職の仕事などを見学したり、世界遺産の仏国寺や石窟庵、国立慶州博物館などで韓国文化に触れた。

海雲台白病院のリハビリテーション室は、成人と小児、理学療法室と作業療法室に分類され、それぞれの療法で治療していた。水治療室にはプールが設置されており、側面を透明にし、横から患者さんの動きをチェックできる構造にするなど工夫されていた。金海報勤病院では作業療法の一つとして、患者さんと直に向き合い、音楽・写真・匂いなどを効果的に使い、視覚・聴覚などを刺激して治療できる部屋があった。



●フェアウェルパーティ

また、韓国の学生との交流を通して人の温かさを感じることができた。韓国の医療や文化に興味を湧くと同時に、改めて「チーム医療・チームケア」の大切さや日本の素晴らしい文化を確認することができた。



建陽（コニャン）大学

詳細な研修プログラムに感謝

福岡保健医療学部 作業療法学科
学科長 原口健三

建陽（コニャン）大学は、論山市の本部キャンパスと大田市の医科大学・医療保健系キャンパスがあり、福岡保健医療学部と福岡看護学部の学生七〇名の研修は大田キャンパスを中心に実施された。



●歓迎午餐での金総長との交流

研修では、建陽大学国際教育院による詳細なプログラムが準備されていた。オリエンテーション、歓迎式典、キャンパスツアー、韓国語研修、文化体験、全体交流会（ジャパNDER）は学生全員で実施し、基本的な日々のプログラム（病院見学、学科別学生交流、福祉施設の見学、幼稚園実習など）は学科別に体験した。

二週間を通して、建陽大学日本（語）学科の学生二名の手厚いサポート（通訳サポート）を受け、充実した研修となった。開始当初は戸惑いと不安を抱えていた学生も、最後には涙の別れをしている場面が多く見られた。

価値観が変わる体験ができた

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 吉田賢右

最初は私たちの振る舞いはぎこちなかったが、病院実習や用意してくれたさまざまな企画を通して親睦を深めることができた。これまで学習してきた私の韓国語が伝わったときはとても嬉しかった。今度の冬に日本に来てくれたときは大いに歓迎したい。



●ジャパNDERでの学生交流

病院研修では脊柱側弯症専門の病院に行った。こうした病院を見学するのは初めてで、日本でも珍しいのではないかと。脊柱の曲がりや測定する機械や、右肩と左肩でどちらがどのくらい傾いているのか測る道具などがあった。また鏡が多く設置されており、患者さんが自分の歩く様子を見ながら歩行練習をしている場面を見るなど、大変勉強になった。

この研修を通して、韓国の文化に触れ韓国の学生たちと交流し、自分の価値観が変わった。今回の経験を今後の自分に生かしていきたい。

中国 リハビリテーション研究センター

違いを知り、適応できたことが財産

福岡保健医療学部 作業療法学科
講師 新川寿子

八月六日〜九日、学生一〇名（大田原キャンパス三名、大川キャンパス七名）と教員一名が北京での研修に参加した。学生は中国リハビリテーション研究センター（CRRRC）の薬局、看護、理学療法、作業療法の各部門で実習するとともに、漢方



●中国リハビリ研究センターでの実習（PT部門）

薬局や中国医学治療センターなど中国の病院に特有な部門について見学・体験を行った。

また、夜には京劇や雑技を鑑賞し、休日には万里の長城や紫禁城など、多くのユネスコ世界遺産を訪れた。

確実に視野が広がったことを実感

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 谷口祐貴

中国について多くのことを知ることができた。下水道の状態によってはトイレに紙を流せない、水道水は硬水のため沸かす必要があるなど、日本と違う習慣に戸惑った。また、北京はビルが立ち並ぶ大都会である一方、市内に故宮、郊外に万里の長城などの世界遺産が点在し、現代と歴史が共存する街だと思った。

中国リハビリテーション研究センターでは、治療師は患者がやりたくないプログラムは行わないなど無駄にストレスをかけないよう配慮されていることや、リハビリ場面に付き添う家族に、リハビリや介護が自宅でもできるように説明している場面を見学した。これにより、家族の負担を大幅に改善できると感じた。日本では体験できない環境や考え方の違いを知り、もっと広い視野で考えなくてはいけないと思うようになった。この気づきを自分の成長のために役立てたい。



●お世話になった方々の似顔絵の前で伝承遊びを紹介

台湾 元培（げんばい）科技大学

国際社会の一員としての飛躍へとつながる

保健医療学部 看護学科
教授 世良喜子

八月一日より一日間、学生三三名（福岡看護学部二五名、大田原キャンパス八名）と教員二名が参加し、今年から京都医療科学大学の学生五名と教員二名が加わった。

元培科技大学は台湾のシリコンバレーといわれる新竹にあり、医学技術学部、健康科学部などを持つ総合大学である。中国語講座や民族文化講座（書道や太極拳、新竹市の寺院の見学）を通して台湾の文化を学び、また、台湾の医療制度の講義や病院、老人ホームの見学から台湾の医療福祉の現状を知ることができた。台湾のボランティア学生が研修運営のサポートはもちろん、ホテルで生活を共にしてくれて、お互いの国を理解していく経験を得た。この心温まる交流は、これからの未来を創っていく学生の国際社会を担う一員としての飛躍へとつながるものと考えられる。



●太極拳の講義での雄姿

充実の台湾二〇日間

福岡看護学部 看護学科
三年 佐々野麻耶

日本の学生七〜八人に対して三人の台湾の学生がサポートしてくれる体制は、異国の地で何もわからない私たちにとって心強い存在であった。

朝から夜まで充実したプログラムが組まれており、元培科技大学の講師陣による言語・文化・医療についての講座や、四か所の病院・施設の見学があった。講



●中国語講座の様子

義では、資料に日本語訳がついていて、通訳などの配慮もあり、理解を深めることができた。

施設見学では最新の台湾医療を学び、独自の文化・考え方が医療に色濃く反映されている部分を感じた。また、自由行動の時間には、台湾ならではの食べ物や観光地を堪能した。積極的な行動や発言が身につく、心からの絆や連携を知ること、人として成長できたと思えている。また、世界についての考え方や視野が広がる研修だった。

特集3

海外保健
福祉事情 中国・台湾

特集3

海外保健
福祉事情

シンガポール・オーストラリア

シンガポール研修は本学初の試みで、小田原保健医療学部の学生一九名(看護・理学・作業)が参加した。ナンヤンポリテクニク校(NYP)と周辺施設での一〇日間の研修はまず、政府の強力な後押しで整備されている設備と恵まれた教育環境に圧倒された。さらに、学内での講義や演習以外に、国の制度に基づきさまざまな規模や役割を持った病院、職業前訓練に特化した施設、地域に根ざしたリハビリテーション施設などを見学した。学生は保健・医療の問題が単に専門職の技術の問題ではないことや、中央積立基金制度をはじめとする国のシステムが歴史的にも明確なビジョンに支えられていることを肌で感じたと思う。日本とはまったく異なる制度下での医療や保健のあり方を垣間見たことは、将来、彼らが日本で自らの理想を具現化するには何が必要かを考える良い契機になったと考えている。



●NYPの学生との合同演習風景

システムの違いから
保健・医療を学ぶ小田原保健医療学部 理学療法学科
学科長 谷浩明シンガポール
ナンヤンポリテクニク校

●シンガポールの社会福祉制度についての講義

シンガポールのヘルスケアシステムの講義は特に印象深かった。シンガポールでは入院した患者さんが退院後再び病院に戻るケースを防ぐために、コミュニティ・ナースプログラムを実施している。看護師だけではなく、理学療法士や作業療法士などの専門職も参加し知識や経験を共有することで、病院に戻る人を減らすことができている。このことを知り、関連職種との連携は病院内だけではなく地域の中でも大切なことだと感じた。

また、学科別の体験学習では、心肺蘇生法と自動体外式除細動器の基本を学んだ後、実際の場面に遭遇したときにどんな対応をとるのがよいかシミュレーションを行い、その対応方法についてディスカッションした。状況に応じて自分で考え対応することは難しかったが、判断力を鍛えるひとつの良い経験となった。

地域でも大切な関連職種連携

小田原保健医療学部 看護学科
二年 山口瑞華

特集3

海外保健
福祉事情

ベトナム・タイ

ベトナム
★ チョーライ病院

活気あふれる二週間

福岡看護学部 看護学科
教授 下條三和

●ジャパンデーで全員修了書をいただいた

八月四日〜八日、ホーチミン市のチョーライ病院で学生四八名(大田原一八名、小田原一名、大川八名、福岡二名)が研修を行った。暑さと連日の夕方からの雨という悪天候の中、患者と家族であふれる活気ある大規模病院で、四グループにわかれて、バイタルサイン測定、清拭、洗髪、処置の介助、リハビリテーション訓練などの活動に触れた。スタッフの方の親切で熱心な指導と入院患者さん・ご家族の方の協力に込めるように、言葉の壁を乗り越えて積極的に研修を行った。

友好的な受け入れのおかげで毎年、有意義な研修が行われているが、今年は日本ベトナム外交関係樹立四〇周年という記念の年でもあり、ジャパnデーでも大いに親交を深めることができた。発展途上で活気あふれるベトナムでの

日本についての勉強不足に
気づいた保健医療学部 理学療法学科
二年 土屋菜摘

●チョーライ病院で研修参加学生と

チョーライ病院では、バイタルチェック、患者さんへのマッサージなどをさせてもらった。慣れていないことであり最初は上手くできなかったが、親切に教えていただいたため、だんだん身に付き、自信を持つことができた。他にもさまざまな施設を訪れたが、特に印象に残ったことは、TUDU病院で日本とベトナムの友好や医療協力の象徴であるドクさんにお会いしたことだ。そこではホルマリン漬けされた奇形児を直接目にし、ベトナム戦争の悲惨さが窺えた。

ジャパンデーでは、料理、歌、ダンス、空手で日本の文化を伝えた。日本について知識不足であったので、今後勉強に励む意欲が湧いた。

タイ
＝ クリスチャン大学

医療格差の大きさにショック

保健医療学部 放射線情報科学科
教授 西木雅行

●病院訪問の後で記念撮影

タイ研修は今年が二年目で、大田原・福岡・大川から二三名の学生が参加した。研修先はバンコク郊外のクリスチャン大学で、看護学科の先生や学生が中心になって研修を支援してくれた。タイは国民皆保険を一応達成しているが、まだ十分な医療が行き渡っていない現状を垣間見た。経済的に豊かな人は私的な保険に入っているが、そうでない人は高度医療を受けているが、そうした余裕がない国民の大部分は公的保険で済ませている。

その医療格差の大きさに皆ショックを受けた。また、死因の二位がエイズ、三位が交通事故であることにも、日本との違いの大きさを認識した。それでも、タイの人は皆笑顔を持っていて、穏やかで、日本に親密な感情を持っている。大震災のお見舞いに対するお礼を述べると、洪水に対する日本のきめ細かい支援に感謝を示してくれ、両国の良い関係が確認できた。

日本にはない病院のかたち

福岡看護学部 看護学科
三年 吉原駿

●ジャパンデーで鶴の折り方を教えている

二週間の生活の中で、私たちはタイの文化や歴史、医療事情について学ぶことができた。そこで驚いたのは、病院はプライベート・ホスピタルとパブリック・ホスピタルのふたつにわけられており、プライベート・ホスピタルは完全な利益追求のビジネスだということ。また、タイではエイズの患者さんが多く、受け入れのために「エイズ寺院」というものがある。そこではエイズの恐ろしさを知ってもらうため、亡くなった方のミイラを展示している「命の博物館」や、引き取り手のない遺灰を祀ったお堂があり、強い印象を受けた。一方、クリスチャン大学の学生と交流する場を多く持ったことは貴重な体験であった。つたない英語ながらもたくさんさんのコミュニケーションを取ることができ、そこでタイと日本の文化を互いに学びあうことができたことが何よりの収穫だった。

伝えようとする姿勢が大切

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
二年 田村公二

●メインビーチにて

八月二日から一五日まで、六一名の学生とゴールドコーストで研修を行った。季節は冬だが日本の五月下旬くらいの気温でさらっとしており、緑が多く美しい街並みであった。しかし、慣れない外国暮らしのせいか体調を崩す学生が多く、その対応に追われた感があった。街に目を移すと、スーパーや道路を電動三輪車で移動する高齢者や障害者が多く、スーパーには電動三輪車の販売コーナーがあった。一方、道路で点字ブロックは見かけず、信号も音が出るものではなかった。

ホームステイ先では、あいさつや手伝いをしない国の学生も多かったようだ。日本人や韓国人はその点は評判が良く、礼儀が基本であることは万国共通だと実感した。ホームステイで英語の能力を確実に向上させたようで、皆多くの思い出とともに帰国することができた。



●TAFEでの実習風景

海外の医療福祉事情を学び、語学を身につけるためにオーストラリア研修に参加した。期待より不安の方が強かったが、さまざまな経験を通して不安は充実感へと変わっていった。老人ホームでは歌で歓迎された。歌詞カードを手で持てない方や声が出にくい方が一生懸命歌ってくれる姿に感動した。耳が聞こえにくい方との英語でのコミュニケーションは試行錯誤の連続だった。ジャパンデーでは習字を行い、ホストファミリーにも実際に書いてもらった。習字を通して日本の文化を紹介できたと同時に、感謝の気持ちも伝えることができた。

二週間のホームステイで感じたことは、伝えたいことを伝えようとする姿勢が大切だということだ。これは、将来医療人として働くうえでも生かしていけると思う。



第28回 小田原

キャンパスレポート

第八回潮風祭

一〇月一九日
二〇日、時折
小雨の降る中、
『結笑(けっしょう)』
うっ笑いで結ば
う心の輪」をテ
ーマに、第八回
潮風祭が開催さ
れた。



●テーマが描かれたエントランス

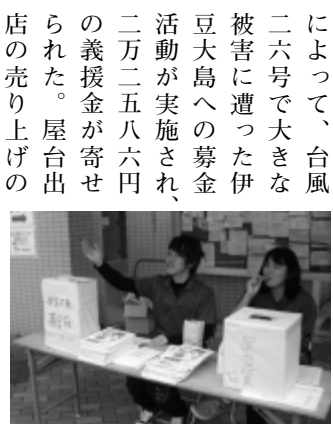
開学当初からの企画「ミスター・ミスコンテスト」や、今年のテーマ「笑い」に沿ったお笑いコンテスト等が企画された。また、昨年に引き続き、本学と小田原市子育て支援センター「おだびよ」の協力で「ちびっこ広場」を展開し、お子様連れの方にも潮風祭を楽しんでいただいた。

一日目には、教育後援会の特別講演会を開催し、北島政樹学長が「先進がん医療におけるチーム医療の展開」と題して講演を行い、一三六名が参加。学生や一般来場者の他に、本学へ入学を希望する受験生の姿も見られた。

両日とも、学生有志と潮風祭実行委員会



●3年生有志も屋台で出店!!



●受付で伊豆大島への募金呼びかけた

によって、台風二六号で大きな被害に遭った伊豆大島への募金活動が実施され、二万二五八六円の義援金が寄せられた。屋台出店の売り上げの一部と共に伊豆大島へ寄付される。

学科紹介ブースでは、看護学科では熱海病院との連携による健康チェックや手洗いチェック、理学療法学科ではマッサージやパライン体験、作業療法学科ではマクラメ体験など、学科の特色を前面に出した企画が展開された。

その他に、夏に行われた海外保健福祉事情の研修報告会、ボランティア活動を行った学生の報告・表彰式など、学術における発展にも例年以上の方が参加した。



●海外保健福祉事情の研修報告会

天候に恵まれず、来場者数は昨年を下回ったが、テーマの通り、来場者一人ひとりが「笑顔」に包まれ帰路につく姿が見られる素晴らしい潮風祭となった。実行委員をはじめとする学生たちの表情には、学生中心の一大イベントをやり遂げた達成感が溢れていた。

(学務課 学生係)

第18回 福岡

キャンパスレポート

第五回蓮翔祭

一〇月一九日、キャンパスが百道へ移転してから初めての蓮翔祭が開催された。今年のテーマはさまざまな「輪」を大切にしたいとの思いを込めて『和(わ)つなげよう笑顔』。同年の学生同士の「輪」、学年を超えた「輪」、サークル活動の「輪」、学生・事務・教員の「輪」、学生と家族の「輪」、そして地域との「輪」。たくさんの「輪」が広がった。

地域に開かれた企画として、正門入口では、小学生以下の子どもたちへ綿菓子配布、二階のスカイデッキでは、各サークルが屋台を出店し、ホットドッグ、たこやき、やきとり、やきそば、スパサラなどのメニューが揃った。



三階のメイン会場では、活気あふれる企画が目白押しで、「オープンニング」のバンド演奏に始まり、「うたうま」では日頃のカラオケ通いの成果が発揮され、学生のパフォーマンスに脱帽。例年の催しである「男装・女装、ミス・ミスターコンテスト」では、こんな学生がいたかしら? と思える変身ぶりに大いに盛り上

がった。

看護体験コーナーでは、血圧測定と高校生対象のナース服の試着撮影が企画され、オープンキャンパスに来場した高校生とその保護者で盛況だった。企画実行委員は二年生と一年生が中心となり、メンバーの間にも大きな「輪」が広がった。



特別講演会を開催

本学副大学院長でナイチンゲール記章を受章された久常節子先生による特別講演会「私が歩んだ看護の道」が行われ、看護学生、地域の看護職、高校生・保護者、教職員など多くの方々が参加した。当時、日本に二校しかなかった看護大学を卒業され、日本の看護の発展に貢献された久常先生の「学生時代の看護との出会い」「留學体験」「七対一看護の導入・看護教育プログラムの改正にかかわる仕事を通しての自己実現の在り様」について楽しく、わかりやすくお話しいただいた。看護を志す高校生や専門職業人となる看護学生にとっては、大先輩の歩んできた道を知る機会となり、めざす看護の道の光を得たことだろう。

(福岡看護学部 教授 塚原ひとみ)



第32回 大川

キャンパスレポート

第九回月華祭

学部名が「福岡保健医療学部」と変わり、新たに医学検査学科が加わって初めての月華祭が開催された。テーマは、本学部のさらなる飛躍を目指した「ON!」。

この月華祭を通して、大学が地域に浸透し貢献できるようにと三つの「ON!」に思いを込めた。

Go on 二次の段階に進もう
Keep on 困難にめげず進み続けよう
Move on 成長しよう



●フィナーレを飾った灯明

二日目は、大川市主催の「大川木工まつり」のパレードに金出英夫副学長や実行委員らが参加。ステージで月華祭のPRを行ったほか、ながなわ選手権では野球部メンバーによる「TEAMナジマ」が三位入賞、日ごろのチームワークを披露した。



●野球部チームがながなわ選手権で決勝進出!

(九州広報室 帆足リエ)

第2回 大学院

キャンパスレポート

初のオープンキャンパスに100名を超える参加者

大学院としては初のオープンキャンパスが九月二三日に開催された。これまで分野ごとに説明会は開かれていたが、大学院全体としては初めての試みで、東京青山のほか大田原、小田原、熱海、福岡、大川の六キャンパスで、合わせて一〇〇名を超える参加者があった。



●金澤一郎大学院長の挨拶で始まった

午後二時から岡村世里奈准教授の司会のもと、金澤一郎大学院長の挨拶、主な教授陣の紹介に続いて、オープンキャンパスにあわせて制作されたビデオが上映された。全国にあるビデオはキャンパスの紹介に始まり、「学びたい」という意思や志を持っている人においていただき

たい」という金澤大学院長のコメント、各分野の特色、修了生による志望動機や思いにあふれた語りが紹介され、一〇分あまりで本学の特徴がわかる構成である。放映終了後は、事務室から奨学金や授業料等、問い合わせの多い質問について説明がなされ、続いて、大熊由紀子教授がファシリテーターとなり、修了生による体験が話された。



●福祉支援工学分野の進学説明会

その後は分野にわかれて進学説明会が開かれ、来場者は興味のある分野の担当教員から説明を受けた。当日は祝日ではあったが授業開講日のため、午後六時からの中村秀一教授の講義を体験受講する人も見られた。

分野の説明等を担当した教員に対するアンケートでは、オープンキャンパスの実施時期については九月がベストという意見と、もう少し早い時期にという声もあったが、概ね好評であった。

なお、当日紹介されたビデオは、「大学院紹介ムービー」として大学院のホームページにアップされている。まだ見ていない人は、是非一度ご覧いただきたい。

(福祉支援工学分野 准教授 東島弘子)

大学院、国際医療福祉総合研究所が医療シンポジウムを開催

国際医療福祉大学大学院および附属の研究機関である国際医療福祉総合研究所が主催し、読売新聞東京本社の後援を得た医療シンポジウム「医療改革への処方箋」が一月九日にホテルニューオータニ（東京都千代田区）で開催され、約四〇〇名が集まった。

この医療シンポジウムは、厚生労働省の老健局長、社会・援護局長など要職を歴任され、現在は内閣官房社会保険改革担当室長も務められている中村秀一先生が、今年四月に本学大学院教授および国際医療福祉総合研究所所長に就任されたことを記念したもの。同研究所は、アジアから初のWHO（世



●挨拶に立つ中村秀一先生

界保健機関）事務局長に就任された故・中嶋宏先生が一九九八年の設立時に初代研究所長を務められた。それ以来、医療福祉分野の第一線で活躍する多くの研究者や実務家が在籍し、活発な研究活動を行うとともに、その成果をシ

ンポジウムやセミナーで発信してきた。

シンポジウムの冒頭では、本学の金澤一郎大学院長が「国際医療福祉総合研究所は医療福祉に関する政策提言をする研究機関として、これから大いに発展してくれるものと期待しています」と挨拶。引き続き中村秀一先生より、「予定されているとおり消費税が増税され社会保障費に充てられることになれば、二〇二五年には医療・介護分野が最も大きな伸びを見せ、医療で現在の一・五四倍、介護が二・三四倍になり、併せて社会保障費の五割を占めるようになる」と見込まれています」と社会保障の中で医療・介護分野がより大きな地位を占めることを強調した。

その後、国立長寿医療研究センター総長で、社会保障制度改革国民会議委員でもある大島伸一氏の「待ったなしの医療改革」、厚生労働省保険局医療課長の宇都宮啓氏による「医療改革に向けての診療報酬」と題した基調講演がそれぞれ行われた。休憩をはさんだ後、「医療供給体制の改革をどう進めるか」をテーマにしたパネルディスカッションでは、本学大学院の武藤正樹教授がコーディネーターを務め、日本病院会の堺常雄会長、全日本病院協会の猪口雄二副会長、日本慢性期医療協会の武久洋三会長、厚生労働省医政局指導課の梶尾雅宏課長、本学大学院の高橋泰教授が熱い議論を交わした。

最後は本学の矢崎義雄総長が総括を行い、盛況のうちに閉幕した。

（東京事務所 広報部）

トピックス

医療福祉・マネジメント学科

第一三回 日本医療マネジメント学会 栃木支部学術集会

一月二六日、大田原キャンパスにおいて、第一三回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会が開かれた。医療福祉・マネジメント学科副学科長の山本康弘教授を大会長とし、テーマは「地方都市における地域医療連携の現状と課題」地方都市の退院調整モデルとは。栃木県を中心とした七都県からの外部参加者一四六名に、教員、学生を含め総勢三一六名が参加した。さらに一般演題発表では、一八演題が発表される盛会となった。

はじめに、ランチョンセミナー（協賛：大鵬薬品工業株式会社）では、本学大学院の高橋泰教授より「二〇二五年問題を踏まえた『老い方、死に方』を考える」と題して講演が行われ、栃木県の人口動態に鑑みれば、団塊世代が高齢者となる二〇二五年には現在の病院を中心とした高齢者ケアでは地域医療を提供することが困難であるとの予測が述べられた。



基調講演では本学大学院の武藤正樹教授より「二〇二五年へのロードマップ」地方都市が直面する二〇二五年問題では

何が起きるか？」と題して講演が行われ、現在の厚生労働省の政策動向を踏まえ、サービス付き高齢者住宅の普及を図り、栃木県内で東京を超える速度で急増する高齢者ケアを提供する必要性が説かれた。シンポジウムでは、



介護老人保健施設マロニエ苑施設長の横地正之先生、公益社団法人栃木県看護協会会長の河野順子先生、栃木県医療社会事業協会会長でもある小嶋章吾准教授の講演とディスカッションが行われた。退院調整の場面で、患者の出し手と受け手の情報のミスマッチを埋めることが円滑な地域医療連携に繋がるのが指摘され、そのためには、高いスキルを持った退院調整専従の看護師、メディカルソーシャルワーカーの存在が重要であることが述べられた。具体的には現在、県内で進められている「入退院共通連携シート」の普及、属人的ではなくシステムとして構築されるべくその人材育成が急がれるとの結論となった。

悪天候の中を訪れた参加者からは、「既に行われている県内の取り組みを知って学びが多かった」、「地域医療連携のために具体的に何を行うことがよいのかがあった」といった声が多く寄せられた。

（医療福祉・マネジメント学科 准教授 今野広紀）

言語聴覚学科

おおるり会卒後研修会

八月四日、言語聴覚学科会総会と卒後研修会が行われ、卒業生約一〇〇名が参加した。



●講義中の大伴潔先生

まず、「幼児期と学童期における言語発達アセスメント」と題し、東京学芸大学の大学の大伴潔先生より学童期における新しい評価方法についての講義が行われ、学童期のコミュニケーション評価の新たな視点を学んだ。次に、「器質性精神障害の理解 高次脳機能障害に併発するものとして」と題し、本学科の穴水幸子講師より精神科医の立場から、事例を交えて講義が行われた。高次脳機能障害に併発する精神疾患というところで、多くの参加者から質問があり、改めて医療従事者同士の連携について考えさせられた。

昼食時の懇親会では昔話や近況報告などで時を楽しんだ。明日からはそれぞれの場所で臨床と向き合い自分と向き合う日々が続く。しかし、「話し合える仲間」が近くにいて、悩んだ時に「相談できる恩師」が母校にいたことを確かめ、強い絆と明日への活力を得た一日であった。

（言語聴覚学科 助教 大金さや香）

視機能療法学科

元培科技大學留学生が二年連続で視機能療法学科に！

台湾の元培科技大學視光系学科四年生三名が後期授業期間に短期留学生として本学科に籍を置き、一〇月中旬から学科の学生とともに勉強を始めた。二年連続の留学生受け入れで、早々からお互いに日本語、漢字、英語を駆使してコミュニケーションを図る姿は頼もしい。一〇月下旬にはロービジョン医学実習で埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセンターを見学し、初めて見るロービジョンエイドや体験学習を通して日本のナショナルセンターの充実した障害者福祉について学んだ。また、国際室の協力のもと、学生が歓迎交流会を企画し、一〇〇名を超える学生と教職員が参加した。ダンス部のパフォーマンスや留学生三名にまつわるクイズを通じて親交を深めた。四か月余の短い期間だが、双方にとって有意義な時間となるものと思う。



●交流会にて（前列左から紅一点の姚さん、新井田学科長、蘇さん、陳さん）

第四回

「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト表彰式開催

本学と毎日新聞社の共催による「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト」は四年目を迎え、一月九日、大田原キャンパスで表彰式が行われた。

全国から寄せられた一五四二点の作品の中から、一次審査、最終審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五点、学校賞七校が選ばれた。

当日は爽やかな秋晴れに恵まれた。式典の前に、「患者さんに優しい医療を求めて」と題して北島政樹学長の特別講演があり、一般来場者や在学生が多数詰め掛けた。写真やビデオを使って低侵襲手術の最前線が紹介され、医療福祉専門職をめざす学生にとって貴重な機会となった。

表彰式には、最優秀賞、優秀賞、佳作に入賞した五名の高校生とその保護者、担当教諭、学校賞を受賞した高校の教諭が招待された。北島学長の主催者挨拶、毎日新聞社



●個人賞・学校賞の受賞者と個人賞の学校関係者

- ・最優秀賞 興儀龍さん 沖縄県立名護高等学校三年
- ・優秀賞 高橋すずさん 兵庫・啓明学院高等学校二年
- ・優秀賞 箱田麻実さん 広島・益進高等学校二年
- ・佳作 浅香友貴さん 東京・大妻高等学校二年
- ・佳作 石原京さん 東京・渋谷教育学園渋谷高等学校一年
- ・入選 板橋佑夏さん 宮城・常盤木学園高等学校一年
- ・入選 小倉沙弥さん 神奈川・横浜共立学園高等学校一年
- ・入選 櫻井操香さん 宮城・常盤木学園高等学校二年
- ・入選 田幡夏海さん 東京・東洋英和女学院高等部一年
- ・入選 山内春奈さん 茨城県立太田第一高等学校三年
- ・学校賞 栃木県立小山城南高等学校 群馬県立吾妻高等学校 茨城県立水海道第一高等学校 千葉・千葉国際高等学校 神奈川・横浜共立学園高等学校 神奈川・鶴見大学附属高等学校 福岡県立久留米筑水高等学校

最後に、最優秀賞・優秀賞・佳作を受賞した五名による作文朗読が行われた。自らの体験を通して見つけた発見や喜び、怒りや悲しみなど高校生の率直な思いが伝わり、同時に、偏見や差別などに真正面から向き合い、自分なりの答えを導き出していく姿は聴衆に感動を与えた。

（東京事務所 広報部 鷺合俊一）

トピックス

附属病院 国際医療福祉大学病院

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」をテーマにした市民公開講座を開催

一〇月六日、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」をテーマにした市民公開講座を開催した。今回の講座は、国福病院が六月から泌尿器外科および消化器外科にて「ダ・ヴィンチSi」を用いたロボット支援手術を開始したことを記念して開催されたものだ。

当日は、蘇原泰則病院長の挨拶に続き、北島政樹学長の「患者に優しい最先端外科治療」内視鏡下手術とロボット手術の過去・現在・未来」および「および筑波大学腎泌尿器外科の西山博之教授による基調講演「前立腺がんの診断と治療の最先端」」が行われた。その後、「ダ・ヴィンチSi」を使って胃がん、前立腺がんの手術を手がけた医師二名による症例報告があった。最後に行ったシンポジウム「未来の手術」では、西山教授、北島学長を交え、外科手術の将来展望が熱く語られた。



●基調講演を行う北島学長

当日は一般市民のほか産学医工連携の行政担当者や医療機器メーカー開発者など、総勢約三〇〇名の来場者があり、熱心に聴講していた。

(運営部 木村裕幸)

増床と今後の整備計画について

栃木県が公募した、病院等の整備計画（全県で二八八床の病床再配分計画）に対し、当院では一五〇床の病床配分の申請をしていたが、このたび栃木県から五五床の増床内示があった。

五五床の内示は、脳神経センターおよび循環器センターに四〇床（CCU、心疾患集中治療室五床を含む）、発達発育センターに一五床である。

当院の病床数は現在三五三床だが、今回内示のあった五五床を含めると四〇八床となり、特定機能病院の承認要件となっている四〇〇床を満たすこととなる。

今後当院では、来春導入される最新型のリニアックや新設されるPET・CT室、そして九室に増設される手術室をはじめ、増床に向けて種々の機能強化を行い、さらなる医療体制の充実を図る予定である。

(総務部)



●導入予定のPET-CT

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

竜巻による被害

九月四日午後一時頃、ほんの一〇秒程の間に、塩谷病院と塩谷看護専門学校の間を突風が通り過ぎた。

飛んできた物により病院の三階や五階の窓ガラスが割れ、リハビリテーション室の別棟の屋根や外壁が破損。さらに、職員の自家用車四〇台以上などが被害に遭った。

幸いにも怪我人はなく、診療にも支障はなかった。

窓ガラスが割れたのも病室ではなくラウンジであったこと、昼食時間を過ぎておりラウンジに人がいなかったこと、通り道が職員駐車場であり、外来駐車場には被害がなかったこと等の偶然が重なったためだ。

その後すぐに大会議室に対策本部を設置し、被害状況の把握や、テレビ局・新聞社等のマスコミへの対処方法の取り決めをした。また今後、注意報・警報が出た時には、外の様子を注意して見ること、窓やカーテンを閉める、布団を被る等を決定した。

(事務部総務課)



●被害にあったリハビリテーション室の別棟

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

「秋の健康チェック」イベントを開催

一〇月二六日、一階三田ホールにて、看護部主催による「秋の健康チェック」イベントを開催した。当院外来を受診されている患者様とそのご家族、周辺地域の方々を対象に、健康への意識を高め生活習慣病予防に役立てることが目的。年一回開催し、今年で四回目となる。

当日は台風の接近であいにくの雨となり、来場者はやや少なめの五〇名だった。しかし、今年新たに加えた「骨密度測定」、「医師による健康相談」の項目はもちろん、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による「姿勢チェック」、「あなたの下肢筋力年齢は?」、「声の体力」など普段経験できない内容で、非常に興味を持っていただいていた。また、管理栄養士による「集団栄養指導」、感染管理認定看護師による「ノロウイルス対策法」など今までの必要性にマッチした内容で好評であった。

アンケートでは、「とても役立った」、「ぜひ今後も続けてほしい」など応援メッセージが多数寄せられた。来年度もこの評価を生かし新たなプログラムを考え、少しでも皆様の健康維持の手助けをしたい。

(看護部)



●感染管理認定看護師による「ノロウイルス対策法」

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

「救急の日イベント」と「救急医療講演会」

九月九日の救急の日になみ、静岡県では九月を「救急医療を考える月間」とし、毎年県内各地でイベントを行っている。本年度は当院において熱海市役所、熱海市消防本部、消防署と協力し、「救急の日イベント」を開催した。救急救命講習会（実技講習含む）や当院循環器内科重政朝彦教授による心臓病に関する講演などを実施し、さらに、市の救急医療を担う当院の日々の活動に対して、齊藤栄熱海市長より感謝状が贈られた。



●齊藤市長より表彰を受ける池澤善郎上席副院長

こうした県や市の取り組みを受け、九月三〇日、当院主催で日本救急医療財団理事長の島崎修次先生をお迎えし、救急医療講演会を開催した。「救急医療における地域医療機関の役割」という題目で、当院職員だけでなく、熱海市職員、近隣救急隊の方などが救急医療に対する地域医療機関の役割を専門的観点で学ぶことができた。

今後、静岡県東部と神奈川県西部の救急医療を担う医療機関として、皆様に役立つイベントを開催していく。

(総務課 中原正実)

附属病院

臨床医学研究センター（福岡地区）

高木病院・福岡山王病院

循環器センター長に横井宏佳先生が着任

九月一日に新設された福岡山王病院循環器センターと高木病院循環器センターのセンター長ならびに国際医療福祉大学・大学院教授として、前小倉記念病院循環器内科主任部長の横井宏佳先生が着任された。横井センター長は、平成三年より二二年間で五万例ものPCI（冠動脈形成術）に携わり、ご自身も一万余例のPCI、EVT（末梢血管内治療）を手掛けた日本屈指の医師である。横井センター長のメッセージを紹介する。

◆◆◆

「病態に応じた的確な治療を行えるよう、福岡山王病院循環器センターでは循環器内科と心臓血管外科と連携して、専門であるカテーテル治療を中心に、心臓はもちろん、頸動脈、腎動脈、下肢動脈などの血管疾患に対する治療に取り組んでまいります。また、専門医師と理学療法士が協力して運動療法（心臓リハビリテーション）に注力するとともに、血管疾患の予防啓発にも取り組みたいと考えています。これらを通じて、両病院が日本の循環器治療の新たな拠点となるよう尽力したいと思っております」

(九州広報室)



●新しく着任された横井宏佳センター長

附属病院

臨床医学研究センター（福岡地区）

介護老人保健施設水郷苑

軽費老人ホーム おおかわケアハウス

周年事業を実施!

開設二〇周年を迎えた介護老人保健施設水郷苑福岡県柳川市は九月二二日に、隣接する柳川リハビリテーション学院講堂で記念講演会・シンポジウムを開催した。「これからの介護老人保健施設の役割」がテーマのシンポジウムでは、新宿けやき園施設長の杉原素子副大学院長による基調講演・シンポジストによる意見交換、そして福岡保健医療学部の辻貞俊学部長による講演が行われた。夕刻からは「柳川秋まつり」を開催。約四〇〇〇人の来場者で賑い、フィナーレでは花火を打ち上げた。

開設一〇周年を迎えた軽費老人ホームおおかわケアハウス（福岡県大川市）も記念式典を開催した。開設当初は九名から始まり、現在は五〇名が入所されている。竜茂隆施設長のご挨拶の後、山本匡介高木病院名誉病院長が記念講演を行い、高齢者が健康で長生きをするための注意を中心に、病気を引き起こす原因やその予防策についてお話しいただいた。

(九州広報室)



第三九回

日本重症心身障害学会学術集会（大会長・下泉秀夫施設長）開催のご報告

九月二六日・二七日、栃木県総合文化センターで、第三九回日本重症心身障害学会学術集会が開催され、国際医療福祉大学柳川センター長なす療育園施設長の下泉秀夫教授が大会長を務めた。

初日は、大会長挨拶の後、柳川療育センター長の高嶋幸男教授が「重症心身障害の脳を理解しリハビリテーション、療育を行う」と題して教育講演を行った。また、介護分野に活用が始まっているロボットスーツ「HAL」開発者の山海嘉之先生の特別講演に続き、障害を持った方が自らモデルとなって登場するファッションショーが開催され、モデルを務めた障害者とそのご家族が一体となり感動的なステージとなった。

二日目には「多職種連携による重症心身障害児（者）の客観的視機能評価法の確立と普及」と題して、本学視機能療法学科長の新井田孝裕教授が特別講演を行った。二日間で三つのシンポジウム、二六三演題の発表などがあり、参加者が延べ一〇〇〇人を超える盛会となった。

(なす療育園)



●開会の挨拶をする下泉大会長

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス** 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 大学院の Facebook、Twitter、 紹介ムービーをぜひご覧ください

- Facebook はこちら: <https://www.facebook.com/iuhwgs>
- Twitter はこちら: https://twitter.com/iuhw_grad
- 紹介ムービーはこちら: <http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/> (大学院サイトのトップページ右上からどうぞ)

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287 - 24 - 3200)

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

- **理学療法分野**
第47回日本理学療法士協会全国学術研修大会(鹿児島)
- **作業療法分野**
作業療法フォーラム2012、第51回作業療法全国研修会(岩手)
- **言語聴覚分野**
摂食・嚥下
リハビリテーションの実際
- **介護・福祉分野**
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護2013



- **医療・福祉・経営実務**
経営者のための医療政策の潮流講座2
- **厚生労働省情報**
厚生労働省障害保健福祉関係主管課長会議
(11月11日開催) ※無料配信
- **受験講座**
介護福祉士国家試験
実技試験対策DVD
(全2巻10,500円)
11月下旬発売予定



- **乃木坂スクール**
遺伝子診断、治療とその問題点
- **情報BOX**
納得!カラダ事典(健康に役立つ
情報を専門医がわかりやすく
お教えします)



お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な配信番組 ●大学授業・副教材
教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講座、トップクラス講義、関連職種連携論、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 95 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市横津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学
<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol. 1

卒業生通信

田宮 愛さん

一九九八年三月
言語聴覚障害(現言語聴覚) 学科卒業。
大学院修士課程修了。
福岡リハビリテーション学部勤務後、
二〇一二年一月より
カリフォルニア州立大学フラトン校に留学中。



●臨床実習中のクラスの様子 (撮影:田宮愛)

私は今、カリフォルニア州立大学フラトン校
大学院でコミュニケーション障害学について学
んでいます。私のプログラムは二年半で、あと
二年で卒業予定です。こちらで言語療法士
(CCC-SLP: Certificates of Clinical Com-
petence- Speech-Language Pathologist)
として働くことをめざしています。

大学院では日本の言語聴覚士養成校と
同様に、講義と実習によってプログラムが構
成されています。講義の内容は日本とさほ
ど変わらず、言語障害、音声障害、構音障
害、摂食・嚥下障害、聴覚障害などそれぞ

れの領域の講義があります。大きく異なる
のはそれぞれの科目の中で常にEvidence
based practicumを意識付けられるところ
です。自分の読んでいる論文がどの程度の
Evidenceレベルなのか、その結果を臨床に反
映させる方法、その意義などをそれぞれの
科目の研究論文としてまとめなくてはなり
ません。

臨床実習は私が日本で行ったものとやや
異なります。日本では、学内実習で名の患
者様を数名の学生で担当し、六～八週間の
学外実習では実習指導者の下で数名の患
者さんを担当しました。私は現在学内実習
中です。初日から二対一で患者さんのセラピー
を担当します。評価訓練計画を立て、さら
にTherapy Rationalesを作成してスーパ
ーバイザーと話し合った後、セラピーを開始
します。スーパーバイザーは観察室から臨床
をみていて、実習後にフィードバックがありま
す。診療録もすべて自分で作成します。日々
言語の壁に当たっては大変な思いをしてい
ますが、来学期の学外病院実習に向けて、
すこしずつ自信をつけているところです。

毎日、論文を読み、レポートに、テストにと
忙しい日々です。卒業後も資格取得のため
にスーパーバイザーの下で約九か月間、Clini-
cal Fellowship Yearを実施し、さらにア
メリカの国家試験に合格しなくてはなりま
せん。昨年一年間は国際医療福祉大学同窓
会マロニエ会より奨学金をいただき、経済的

現在、全国各地で活躍する卒業生は一万四千人を超えています。
本学卒業生向けの情報をより多く発信できるよう、
今号から広報誌に「同窓会通信」のページを新設いたしました。
同窓会および卒業生の情報を選びすぐてお届けしていきます。

にもバックアップしていただきました。道は長
く険しいですが、日本語と英語で言語療法
を提供することを夢見て、これからも勉学
に励みたいと思います。

同窓会幹事紹介 松本准幹事を紹介します



今年度より、
薬学部同窓会幹
事を務めること
となりました本
学薬学部第一期

卒業生(〇五生)の松本准です。私は本学
を卒業後、千葉大学大学院へと進学し、今
年度より本学薬学部の助手を勤めさせて
いただいております。自身の母校ということ
もあり、本学で働けることを心より嬉しく
思っております。

私が本学を卒業してから既に四年以上
が経過しております。助手として本学に戻
ってきた当初はすべてが懐かしく、大田原市
内を車で走った際、この自然豊かな地にま
た戻ってきたのだということを強く感じま
した。私が在学していた際に教えてくださ
った先生方も多く、現在は同僚として非常
に優しく接してくださいます。当時学生であ
った私が、現在は本学薬学部の教員を務め

事務局からのお知らせ

大学Gmailの利用について

国際医療福祉大学ではGoogleのWebメールであるGmailを2011年度から
導入していますが、早く確実に卒業生に情報を届けることが可能であるため、こ
のたび、全卒業生にGmailアカウントを整備いたしました。

ご利用案内は同窓会ホームページに掲載しておりますので、同窓生の皆様
は確認をお願いいたします。

HP: <http://maronie.iuhw.ac.jp/>

連絡先 不明者につ いて

現在、同学科卒業生宛てに連絡先不明者リストを送付して
おります。リストに記載されている不明者への連絡が可能なのは、
お手数ですがご本人に連絡いただくか、本人の了解を得た
のち、同窓会事務局へ情報をお寄せください。

ていることに關してなんだか不思議な感じ
がしておりますが、今後本学の教育および
研究に精一杯従事していきたいと思ってい
ます。
他学科と比較すると薬学部の歴史は浅
く、薬学部における同窓会の認識は非常に
低いというのが現状です。今後は同窓会幹
事として、薬学部卒業生によるイベント等
を企画し、卒業生のつながりを深めること
で、本学の発展に貢献していけたらと思っ
ております。今後皆様のご協力を賜る機
会もあると思いますが、何卒よろしくお
願い申し上げます。

ここから通っています！ 自宅通学生の通学レポート

大田原キャンパスは、およそ66%の学生が市内のアパートでひとり暮らしをしていますが、もちろん、自宅から電車とスクールバスを乗り継いで、あるいは、自宅から車で通っている学生もいます。今回はそんな自宅通学者のレポートをお届けします。



1限がある日は6時20分に家を出ます！

厚木 彩香さん

(栃木県立栃木女子高校出身)

薬学科1年



定期代は3か月で155,710円

家族の声



時間通りに起きられないことがあります。でも、眠い目をこすりながら通っているので、娘なりに頑張っていると思います。

●自宅に最寄りのJR栃木駅。



●栃木市内を流れる巴波川。夜のライトアップが自慢です。



自宅通学の理由、利点は？

何よりも家族が身近にすることが一番の魅力です。いつも相談にのってくれ、私の健康状態を気にかけてくれます。それと、夜遅く帰宅する私のために温かいご飯を準備してくれています。

ひとり暮らしの友人とのつき合い方は？

うまくいっている人もいますが、なかなか難しいと思います。特にグループの中でひとりだけ自宅通学だと…。グループのうち、ひとり暮らしと自宅通学が半分ずつくらいがうまくいくのでは。

休日の過ごし方は？

土日でも平日と同じくらいの時間に起きて7時からバイト。14時くらいに終わり、家に帰って自分の洗濯をしたり家の手伝いをしたり。

今後の予定は？

電車の乗り継ぎが悪くなったら車にしようと思っています。1か月ほど車で通学した時は、高速道路を利用して朝は100分、夜は80分。時間の縛りがないので車の方が好きです。ただ、運転中に勉強などできないのが難点。



●東口からスクールバスに



●大田原キャンパスに到着

1年生の5月頃からコツコツ通い、8月に運転免許をとりました！

塚原 栞さん

(國學院大學栃木高校出身)

薬学科2年



ガソリン代は1か月16,000～20,000円

家族の声



電車では2時間かかり、時間も拘束されるので車で通わせています。寝る時間が遅いので、居眠り運転が心配です。



●ギネスに載っている世界で一番長い杉並木。

自宅通学の理由、利点は？

一番は経済面です。自宅から通えばかかるのは交通費だけ。せっかく通えるところに住んでいるので、自宅通学を続けています。どんなに遅くに帰っても、温かいご飯とお風呂があるので離れられません。

ひとり暮らしの友人との付き合い方は？

入学当初は電車とバスで通っていたので、自分だけ先に帰ったり、相手が先に帰ったりしていました。車にしてから帰る時間を合わせることでできるようになり、早く終わる日は、一緒にご飯を食べに行くこともあります。

休日の過ごし方は？

昼頃まで寝ています。あとはマンガや本を読んだりテレビを見たりと、趣味を全うしてから、バイトに行きます。家族からは「干物女」と呼ばれています(笑)。

今後の予定は？

本格的に実習が始まって、通うのが大変になったらひとり暮らしにするかもしれません。憧れもありますが、今の生活が気に入っているので、少し迷います。



●2000台収容の学生駐車場



●11月中旬、まだ残っていた紅葉。

(これも家族の声)
もう少し家事を
やってほしい！

今回初めて自宅通学生にスポットライトを当てました。自宅通学の良いところとしてふたりに共通しているのが、「温かいご飯」が待っていること。これはやはり大きなポイントかもしれません。ひとり暮らしの友だちとの時間に制約があることもわかりました。将来のひとり暮らしも考えながら、家族に支えられて頑張っている姿がうかがえるレポートでした。

